

作成日: 2021年5月31日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名: ポチコンフィラメント NTL34M
製造会社名: 大塚化学株式会社
住所: 大阪府中央区大手通 3 丁目 2 番 27 号
電話: 088(665)1643(徳島工場 品質保証部)
FAX: 088(665)3820(徳島工場 品質保証部)
緊急連絡先電話番号: 088(699)7980(松茂工場)、088(665)1516(夜間・休日:徳島工場)
整理番号(SDS No.): KZS0512-3

2. 危険有害性の要約

GHS 分類: 分類できないまたは区分に該当しない。
GHS ラベル要素:
絵表示: なし
注意喚起語: なし
危険有害性情報: なし
注意書き: なし
その他の危険有害性: 溶融時には眼や皮膚を刺激する有害なガスが発生するおそれがある。
サンディング、研磨あるいは切断等の加工時に発生する粉塵を長期間もしくは
反復して吸入ばく露すると、肺障害を生じるおそれがある。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物
化学名(又は一般名): 樹脂複合材料

成分名	含有量(%)	CAS RN [®]	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
ポリアミドXD10樹脂	非公開	非公開	既存化学物質
チタン酸カリウム	15-25	59766-31-3	(1)-461

4. 応急措置

吸入した場合: 樹脂の溶融時に発生するガスを吸入して気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所に移動し、回復を待つ。回復しない場合には、医師の診断を受ける。サンディング、研磨あるいは切断等の加工時に発生する粉塵を大量に吸入したことによって、咳や胸苦しさ等の呼吸器系の症状が生じた場合には、直ちに空気の清浄な場所に移動する。呼吸困難の場合には酸素を与え、直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合: 粉塵が付着した場合には石鹼と流水で十分に洗い流す。溶融物が付着した場合には、直ちに清浄な水で冷却させる。皮膚の上で固まった樹脂は無理に剥がさず、十分に冷却させてから速やかに医師の診断を受ける。
眼に入った場合: 速やかに流水にて15分以上の洗浄を行う。眼をこすってはならない。洗眼は瞼を指で開いて行う。刺激等の異常が認められる場合には眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合: 誤飲した場合には、コップ1から2杯の水を飲ませて吐かせる。
必要があれば医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤: 水、泡沫消火剤(エアフォーム)、粉末消火剤、炭酸ガス等
使ってはならない消火剤: 情報なし
火災時の
特定危険有害性: 火災時には、有害なガス(二酸化炭素、一酸化炭素及び微量のHCN、NH₃等)が発生するおそれがある。
特定の消火方法: 周辺火災の場合であって、何ら危険性を伴わない場合には、火災延焼のない安全な場所に移動させることが望ましい。移動できない場合には、容器とその周辺に散水して冷却させる。
消火を行う者の保護: 必ず呼吸保護具と適切な保護具を着用し、風上より行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 適切な保護具(ばく露防止措置参照)を着用する。

環境に対する注意事項: 漏洩物が排水系などの水面へ漏出した場合には、鳥類や魚類への悪影響があるので全て回収する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 回収作業中に粉塵を発生させる可能性がある場合には、まず漏洩物を水で湿らせてから、作業を行う。回収残渣については、吸引掃除機で除去する。漏洩物には異物等が混入している可能性があるため元の容器には戻さず、適切な容器に回収して廃棄する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い: サンディング、研磨あるいは切断等の加工時には、粉塵の吸入を避けるために、適切な呼吸保護具(8. ばく露防止及び保護措置参照)を着用し、作業中には換気を行う。成形作業では加熱溶融によって発生するガスを排出するために有効な局所排気装置を設置する。ガスの吸入を避けるために、適切な呼吸保護具(8. ばく露防止及び保護措置参照)を着用する。

注意事項: 溶融時に眼、皮膚または呼吸器系を刺激するガスが発生する場合がある。高温の溶融物には直接触れない。作業場では火気を使用しない。粉塵を取り扱う場合には、静電気を除去するために装置等をアースする。粉塵の発生は避ける。作業後には、手や顔の洗浄やうがいを行う。作業着は常に清浄なものを着用し、粉塵等が付着した衣類は再使用の前に洗濯する。

保管: 直射日光を避け、火気や熱源から遠ざけて保管する。破袋防止の為に多段積みは避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策: 溶融時に発生するガスや、加工時に発生する粉塵で作業場が汚染されないように、局所排気及び全体換気を適切に行う。

管理濃度: チタン酸カリウム 3.0mg/m³

許容濃度: 日本産業衛生学会¹⁾

その他の無機及び有機粉塵(第3種粉塵):吸入性粉塵;2mg/m³、総粉塵;8mg/m³

保護具:

呼吸器用の保護具

防塵マスク

手の保護具

溶融した樹脂を取扱う場合には耐熱手袋を着用する。

眼、顔面の保護具

メガネまたはゴーグル

皮膚及び身体の保護具

長袖の作業衣

適切な衛生対策: 粉塵やガスが発生する可能性があり場合には、清浄な作業環境を維持しつつ、保護具の着用等の適切な労働衛生管理を行うことが望ましい。取扱い後は、手洗い、洗顔、うがいを十分にやる。的確な工業衛生管理に則った換気及び清掃を実施する。作業着は常に清浄なものを着用し、粉塵等が付着した衣類は再使用の前に洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態:

固体

形状:

フィラメント

色:

白色

臭い:

無し

pH:

水に不溶

沸点:

データなし

融点/凝固点:

190℃

分解温度:

データなし

可燃性:

データなし

爆発上限界及び爆発下限界/可燃範囲:

粉末状の樹脂が存在すると、粉塵爆発の可能性はある。

引火点:

データなし

自然発火点:

データなし

動粘性率:

データなし

蒸気圧:

なし

相対ガス密度:

なし

密度及び/又は相対密度:

1.27

溶解性:

水に対する溶解性: 不溶

オクタノール/水分分配係数 (log Pow):

水に不溶

粒子特性:

データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性: 通常の取扱いにおいては安定。

反応性:	知見なし
危険有害反応可能性:	熱分解により、有害なガス(二酸化炭素、一酸化炭素及び微量のHCN、NH ₃ 等)が発生するおそれがある。
避けるべき条件:	危険な反応の原因となる条件は知られていない。
混触危険物質:	危険な反応の原因となる化学物質は知られていない。
危険有害な分解生成物:	不完全燃焼の場合は、一酸化炭素等の有害なガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性:	製品自体の急性毒性試験は実施されていない。
皮膚腐食性/刺激性:	加熱溶融時に皮膚を刺激するガスが発生する。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	加熱溶融時に眼を刺激するガスが発生する。
呼吸器感作性または皮膚感作性:	知見なし
生殖細胞変異原性:	知見なし
発がん性:	知見なし
生殖毒性:	知見なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	知見なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	フィラメント状態の樹脂の有害性については知見なし。 サンディング、研磨あるいは切断等の加工時に発生する粉塵を長期間もしくは反復して吸入曝露すると、肺障害を生じる可能性がある。
誤えん有害性:	知見なし

12. 環境影響情報

生態毒性:	誤食に伴う海生生物等への影響が懸念されている。
残留性・分解性:	知見なし
生態蓄積性:	知見なし
土壤中の移動性:	知見なし
オゾン層への有害性:	データなし

13. 廃棄上の注意

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の「産業廃棄物(廃プラスチック類)」に該当する。知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する(地方公共団体が処理を行っている場合には、地方公共団体に委託する)。

14. 輸送上の注意

1. 海上輸送(船舶安全法、IMO/IMDG CODE):

国連番号: 非該当
クラス: 非該当

2. 航空輸送(航空法、ICAO/IATA):

国連番号: 非該当
クラス: 非該当

輸送の特定の安全対策及び条件:

容器を積載する場合には、落下や転倒の防止策を講じると共に、水濡れ防止の為にシート等による措置を講じる。容器の破損防止の為に粗暴な取扱いを行わない。運搬時に漏出した場合には「漏出時の措置」に従い、処理する。

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物および有害物: 人造鉱物繊維 名称等を通知すべき危険物および有害物: 人造鉱物繊維
化学物質管理促進法	非該当
消防法	指定可燃物: 合成樹脂類(発泡体以外); (指定数量)3000kg

16. その他の情報

参考文献

- 1) 産業衛生学雑誌, 62, 198 (2020)

この資料は「JIS Z 7252:2019(GHSに基づく化学品の分類方法)」及び「JIS Z 7253:2019(GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル・SDS)」、(社)日本化学工業協会の「GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシートの作成指針」に基づき作成しています。

責任の限定について

安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考情報として、当該化学製品を取扱う事業者提供されるものであって、安全を保証するものではありません。ここに記載された数値は、規格値や品質を保証する数値ではありません。

この安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該化学製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。記載内容は当該化学製品の一般的な取扱いについて記載したものです。当該化学製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の実状に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この安全データシートを活用されるようお願いいたします。